令和５年１月

くすの木通信

三高だより第 194 号

元気があれば何でもできる～元気の次は勇気だよ～

校長　鈴木 斎

タイトルの一部、「元気があれば何でもできる」という言葉は、昨年 10 月にお亡くなりになられた、プロレスラーとしては新日本プロレスの創業等で、また政治家としても様々な役職を歴任された、アントニオ猪木氏の名言です。「元気の次は勇気だよ」という言葉は、浅田次郎氏の短編小説「冬の星座」の中で、ある老婆の通夜に宅配便の前掛け姿でうめき声を上げながら転げ込んできた中年男性のセリフの一部です。そのセリフを紹介させていただきます。

「俺ね、工場をリストラされちゃって、この仕事を始めたんだけど、歳も歳だからつらくてつらくて、でもローンはしこたまあるし、ガキは四人もいるし、死んじまったほうがどんなに楽かってね、生命保険で家族を食わしたほうがよっぽど簡単だろうってくらいに思いつめてたんです。そんで、初任給の前で千円の金もなかったから、友部医院に荷物を届けたあとで、まん前の川原でぼんやりしていたら、ばばあがほかほかの握り飯と、麦茶を持ってきてくれたんだよ……俺、どうしてこんなことしゃべってるんだ。いやだよな、ばばあ。あんた、あのとき言ってたもんな。恩に思っちゃいやだよ、って……でもよォ、ばばあ。俺、あんとき握り飯と麦茶をめぐんでもらわなかったら、まちがいなく多摩川の鉄橋で首吊ってたもんな。それを恩に思わずにいられるかよ。あんたは男だからお金は上げられない。そういう簡単なことはしてやれないって、言ってくれた。そのかわり、元気が出るまで毎日おにぎりとお茶は上げられるよって。元気出たぜ、ばばあ。おかげで成績も上がってよ、今じゃ給料だって七十万の左うちわだ。九十いくつのばばあが元気なのに、五十いくつの俺がへたばってどうするってよ、ずっとそう思って頑張ってきたんだよ。まてよ……そう言やァ、きのう妙なこと言ったな。あんた、もう大丈夫だねって。だから言い返したんだ。ああ、もう大丈夫だからくたばってもいいぞ、って。そしたら……そしたら……クソ、何てうめえこと言いやがったんだ、ばばあ。**元気の次は勇気だよ**、だと。俺、あんたにすっかり元気にしてもらったからな。だから、あしたからは勇気を出すからな。九十までトラック運転するからな。ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとう、なら、これでさいならです。何も恩返しができねえけど、香典だけ置いてくから。そんじゃ、さいなら、ばばあ」

全校生徒の皆さんに元気を出してほしいと願っています。そして、全校生徒の皆さんに勇気を出してほしいと願っています。